



町生涯学習センター・図書室

☎ 096-234-2447 (内線331)

■開館時間 午前9時～午後5時

■休館日 毎週火曜  
年末年始

■貸出冊数 1人5冊まで

■貸出期間 15日間



▲町図書室カウンター前に設置してある「年間貸出ランキング」のコーナー

### 「年間貸出ランキング」コーナーの紹介

話題になった本や文学賞などの受賞作品、映画やドラマの原作本、著名人の本など、本年度に貸し出しの多かった本はどんな本だったのか、「年間貸出ランキング」コーナーを作っ

て紹介しています。「ほとんど読んで

いない」「こんな本があったのか」など、楽しくチェックしていただけると幸いです。お気に入りの本は、何度でもどうぞ。読み返すたびに物語や知識が深くなります。ぜひ、ご利用ください。

### 0歳児からのおはなし会について

図書室では、毎月第2木曜日に「0歳児からのおはなし会」を開いています。絵本の読み聞かせや、手袋人形、手遊びうたなど楽しい内容です。子育て中の保護者のみなさん、おじいちゃん、おばあちゃんも子どもたちとお気軽にご参加ください。

#### 日時

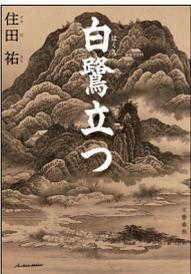
3月12日(木) 午前10時30分～

#### 会場

おはなしのへや(町生涯学習センター・図書室内)

## 新着図書紹介

### 小説



#### 白鷺立つ

住田 祐 著/文藝春秋

天明飢饉の傷痕いまだ癒えぬ比叡山延暦寺に、失敗すれば死といわれる「千日回峰行」を成し遂げようとする2人の仏僧がいた。歴史に名を残すための闘いは、やがて業火となり叡山を飲み込んでいく…。第32回松本清張賞受賞作です。



#### しっぽのカルテ

村山 由佳 著/集英社

信州の美しい木立に佇むエルザ動物クリニック。瀕死の野良の子猫、高齢犬ロビン、インコのタロウ。スタッフは日々運び込まれる動物たちの治療を懸命に続け…。かけがえのない命をいかに救い、看取るのか。命への愛に満ちた物語です。



#### たとえば孤独という名の嘘

菅田 哲也 著/文藝春秋

警視庁公安部の佐島の大学時代の友人・稲澤が、勤務先の女性部下・矢代を殺害した容疑をかけられた。被害者は、佐島と稲澤が学生時代に恋焦がれた女性・綾と瓜二つだった…。次々と真相が反転する「警察×スパイ」ミステリーです。

### 一般書



#### シリアの家族

小松 由佳 著/集英社

シリアの砂漠で出会った総勢70人の大家族。その十二男と結婚し、シリア難民の妻、そして二児の母となった写真家が、激動のシリアを生きた市井の人々の、等身大の姿を描く。第23回開高健ノンフィクション賞受賞作です。



#### 集まる日もこの2皿さえあれば。

有元 葉子 著/集英社

集まる日も、2皿あればいい。丁寧に、でも手間はかけすぎず、華美でもなく、でも、おしゃれに…。“人を呼びたくなるレシピ”を厳選して紹介しています。著者のセンスに魅了される、アートブックのような美しいレシピ集です。



#### 素人校長ばたばた日記

川田 公長 著/三五館シンシャ・フォレスト出版

33年間、地方公務員として県庁に勤めていた私にとって高校校長への異動は青天の霹靂で、実際に勤務してみるとそこはまるで異世界であった…。「県立高校を経営する」という仕事の裏舞台を余すところなく記したドキュメントです。

2月14日（土）、町生涯学習センター ホールで第29回新甲佐町史歴史研修会が開催されました。

同研修会は、平成25年刊行の『新甲佐町史』を用いて、本町の今と昔を考え、成り立ちを追うことを目的に、町教育委員会が主催。今回は「余所（よそ）から視（み）た甲佐町の文化財～知られざる地域の文化財を知る～」と題し、熊本市塚原歴史民俗資料館の稲津暢洋さんを講師に、約40人が参加しました。

研修会では、岩下一区の恵比寿神社で使用されている竹葉石（ちくようせき）は熊本県特有の石材で、国会議事堂の副議長の暖炉にも使用されていることや、江戸時代の宇城市（旧豊野村の休村）の石工（いしく）、古田安兵衛作の石灯籠（いしどうろう）が甲佐神社や早川厳島神社で確認され、その他、休村の石工たちの作品が町内にあることなど、講師自らが訪れて調査した本町の気になる文化財や地名、熊本市塚原歴史民俗資料館に収蔵されている本町の資料などについてお話

されました。

参加者からは、「何気なく暮らしていて気付かないことが多いのですが、文化財は身近なものであることに気付きました」などの感想があり、多くの方が身近な文化財を再確認する機会になりました。



▲町生涯学習センター・ホールで開催された新町史研修会

お問い合わせ先

町社会教育課

☎ 096-234-2447（内線327）

## 人権 ～心豊かに暮らすために～

### 歌を通して一人ひとりの命の大切さ伝える

【「町人権教育講演会」で歌手の木山さん、「Home」など6曲熱唱

1月18日（日）、町生涯学習センターホールで「令和7年度甲佐町町人権教育講演会」を開き、町民や教職員、町職員など123人が参加しました。

部落差別（同和問題）をはじめ、あらゆる人権問題について、住民や企業などに正しい認識と理解を深めてもらうと町人権教育推進協議会などが開催。歌手の木山裕策さんが「今、歌を通して伝えたいこと～一人ひとりの生命の輝きを見つめて～」と題して講演しました。

木山さんは会社員時代の36歳で甲状腺がんになり、その難局を乗り越えたことをきっかけに歌手を目指し、2008年に家族をテーマにした楽曲「Home」がデビュー。同年末のNHK紅白歌合戦に出場され、現在は歌手と講演活動を中心に活躍中です。

講演では自身の体験を通して人の命の尊さや家族の絆を語られ、後半のミ

ニコンサートでは「Home」を含め全

6曲を熱唱。曲は全て人を大切に思う心、一人ひとりが唯一無二の存在として尊重されることを伝える選曲でした。

参加者は「体験から考えた事を伝えていただき、本当に参考になりました。勇気をもらい、とても感謝します」「負けを受け入れる・自分と向き合う・前向きに生きる。自分を信じてそんな人生を送っていきます。コンサート感動しました」などと話していました。

●お問い合わせ先  
町社会教育課  
☎ 096・234・2447  
(内線324)



▲町人権教育講演会で熱唱する木山裕策さん